

治療までに準備しておきたいこと

更新・確認日: 2019年04月23日 [[履歴](#)]

履歴

- 2019年04月23日 「患者必携サイト」から移設しました。
- 2013年10月15日 普及新版(2013年9月発行)の内容に更新しました。
- 2012年02月01日 掲載しました。

[閉じる](#)

このページは、書籍「患者必携」シリーズの内容を抜粋して掲載しています。

[1. 治療が始まるまではこれまでどおりの生活を](#) [2. 助成制度を事前に確認しておきましょう](#) [3. 入院時の持ち物は必要最小限に](#)

治療が始まるまでの時期には、焦りや不安を感じることもありますが、普段どおりの生活を心がけ、入院に備えましょう。

1. 治療が始まるまではこれまでどおりの生活を

一般的に、がんと診断されてから実際に治療が始まるまでは、何度か病院に通い必要な検査を受けます。また入院が必要な場合には、病院の所定の窓口で入院の申し込みをします。

この期間は風邪などをひかないように体調を整えておくことは必要ですが、基本的には、これまでどおりの生活で大丈夫です。ただしほかの病気がある場合や、がんの種類や治療の内容によっては、食事制限など生活面での注意が必要な場合もありますので、事前に担当医や看護師に確認しておくことが必要です。

治療中の仕事の引き継ぎや、子どもの世話の依頼などもできれば早めにすませておいたほうがよいでしょう。子どもの世話や家族の介護などを依頼できる人がいない場合などには、がん相談支援センターに相談してみましょう。

自分のがんのことを周囲に話すときには、多くの人がためらいや迷いを感じるものです。このため誰にどこまで病気のことを伝えるかは、家族でよく話し合っておくとよいでしょう。

2. 助成制度を事前に確認しておきましょう

あらかじめ担当医や相談窓口聞いておくと、検査や治療のおおよその医療費を知ることができます。

治療費が高額になる場合には、「高額療養費制度」など活用できる助成制度がないか、病院のがん相談支援センター(もしくは病院の相談窓口)で確認しておくことで安心です。また、自分が加入している生命保険や民間の医療保険、がん保険などからのくらの給付金が下りるのか、そのためにどのような手続きが必要になるのかについても調べておきましょう。

入院中は盗難の恐れもありますし大きな額のお金を使う機会もありませんので、あまり大金を持っていかないことをお勧めします。最近では、銀行の現金自動預け払い機(ATM)が設置されていたり、クレジットカードを利用できる病院もふえています。

3. 入院時の持ち物は必要最小限に

入院治療を受ける際の持ち物は、必要最小限にしましょう。入院に必要なもの(表1)は早めにそろえておくと便利です。治療前後に

必要になるものや日用品の多くは病院内の売店でも購入できます。

表1:入院時の持ち物リスト

●入院時の持ち物リスト

チェック欄

必ず必要なもの

- 診察券(カード) 健康保険証 入院誓約書 印鑑
- 外来で出されている薬と薬のリスト お薬手帳
- 限度額適用認定証(必要なとき)
- 食事療養費の標準負担額減額認定証(必要なとき)

※食事療養費は、所得によって減額を受けることができ、そのためには「標準負担額減額認定証」が必要です。

生活用品(※病院の売店で購入可能な場合もあるので、事前に確認しましょう)

- パジャマ(吸湿性がよく、前開きでゆったりとしているもの)
- パジャマの上に羽織れるもの(カーディガン、前開きのベストなど)
- タオル類(バスタオル、フェイスタオルなど、多めに)
- 下着・靴下類(ゆったりサイズを)
- スリッパ(滑りにくいもの、室内履きでも可)
- 洗面用具(洗顔石けん、歯ブラシ、くし、鏡、コップなど)
- 入浴用品(石けん、シャンプー、リンスなど)
- 食食用具(湯飲み、曲げられるストロー、はし、スプーン、フォーク)
- ハンガー、洗濯ばさみ(洗濯ができるようなら洗剤も)
- ティッシュペーパー、輪ゴム、ビニール袋など
- ノート、筆記用具(日記やお見舞い品などを記録しておくとう便利です)
- 病院でもらった書類などを入れるファイル、封筒など
- 現金(盗難の恐れがあるので、大金は持っていかない方がよいでしょう)
- 時計

必要に応じて持っていきたいもの

- 眼鏡、眼鏡ケース、手帳、住所録
- 衛生用品(生理用品など)
- リップクリーム、乳液など(無香料のもの)
- 本、雑誌
- ラジオ、CD・DVDプレーヤー、パソコンなど(使用できるかどうか病院に確認が必要です)
- イヤホン、ヘッドホン(病室のテレビを見るときに使用)
- 運動靴、ジャージーなど(散歩用)
- 小さなかばん(院内での買い物などに便利)

●その他

『わたしの療養手帳』「入院の準備をする」(PDF)より

(入院に必要なものを一覧にして、渡してくれる医療機関もふえています)

・手術を受ける方へ

綿素材などの肌触りのよい、脱ぎ着の楽な服を用意しておきましょう。前開きの服が便利です。ワイヤー入りの下着など、体をしめ付けるものは避けた方がよいでしょう。入院手続きのときに、詳細な説明が受けられます。

・薬物療法(抗がん剤治療)を受ける方へ

脱毛の副作用がある抗がん剤治療を受ける場合、髪の毛の長い方はあらかじめ短くしておくと、手入れがしやすいでしょう。また帽子や医療用かつら(つけ毛)を上手に利用するのもよいでしょう。最近では医療用かつらのパンフレットを置いている病院もふえています。どのようにしたらよいかわからないとき、迷ったときには、がん相談支援センター(もしくは看護師など)に相談してください。

また薬物療法のときには、気分が悪くなることもありますので、ゆったりした服や下着を着るようにしましょう。

・放射線治療を受ける方へ

服装は脱ぎ着しやすいものがよいでしょう。放射線治療後は、放射線を当てた部分の肌が敏感になっているため、ゆったりした服や下着を着るようにしましょう。直接日光が当たる部分については、日傘や帽子などの紫外線対策が必要になります。また外来で放射線治療を受ける方は、照射部に目印を付けるためのインクが服に付くことがあります。白っぽい服やお気に入りの服は避けた方がよいでしょう。

